

## 第3章 立地適正化計画の基本方針

### 3-1 まちづくりの基本方針

第2章で整理した本市の課題と上位・関連計画を踏まえ、まちづくりの基本的な考え方を示すとともに、【居住】【都市機能】【公共交通】【防災】の課題ごとにまちづくりの基本方針を設定します。

#### 【基本的な考え方】

- 伊集院駅、湯之元駅及び東市来駅を中心に、都市機能の維持・充実を図るとともに、安全かつ利便性の高い居住地を形成します。
- 市全域を公共交通ネットワークによって包み込み、市民や来訪者の移動手段の確保を目指します。





本市の課題	基本方針
<b>課題①【居住】</b> 市民の住環境の維持・確保	<b>居住の促進によるにぎわいの創出</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 空き家・空き地等の有効活用など、まちなか居住を促進することにより、にぎわいのあるまちの形成を図ります。</li> <li>◆ 安心して子育てができる住環境の整備などにより、若者・子育て世代の居住促進を目指します。</li> <li>◆ 多様な世代において、住み慣れた地域で暮らし続けることができるまちづくりを進めます。</li> </ul>
<b>課題②【都市機能】</b> まちなかにおける都市機能の維持・充実	<b>都市機能の充実による市民生活の向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 都市機能の集積や維持により、市民生活の利便性向上を図り、持続可能なまちの形成を目指します。</li> <li>◆ 駅周辺のバリアフリー化や景観整備などにより、まちなかの魅力を向上させ、歩きたくなるまちなかを目指します。</li> </ul>
<b>課題③【公共交通】</b> 公共交通サービスの維持・向上	<b>利便性の高い公共交通ネットワークの形成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 各地域を公共交通ネットワークで結び、移動しやすい地域環境を目指します。</li> <li>◆ 市民の暮らしを支える都市機能へアクセスするための交通手段の維持・利便性向上に努めます。</li> </ul>
<b>課題④【防災】</b> 災害リスクの低減・回避	<b>災害に強い安全・安心なまちの形成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 災害に強いまちづくりを推進することで、市民や来訪者等の安全・安心な暮らしを守ります。</li> <li>◆ 建物の耐震化などの防災対策を推進するとともに、市民の防災意識を高めるために災害情報メール等の周知・普及を行うなど、災害リスクの低減に努めます。</li> </ul>

図 まちづくりの基本方針

### 3-2 目指すべき都市の骨格構造

本市の目指すべき都市の骨格構造について、「日置市都市計画マスタープラン」の都市構造を基に、以下のとおり設定します。

表 拠点・連携軸の位置付け

区分	名称		位置付け
拠点		都市拠点	伊集院駅や東市来駅、湯之元駅を中心とした市街地は、都市拠点として位置付け、都市機能の維持・集積を図るとともに交通結節点としての強化を図ります。
		地域拠点	吹上地域及び日吉地域の支所周辺は、地域拠点として位置付け、地域住民の居住環境を維持し、日常的なサービスの維持を図ります。
連携軸		都市間連携軸	都市間の広域な連携軸として国道3号、270号及び南九州西回り自動車道を位置付け、近隣自治体との交流や災害時の輸送路などの機能強化・連携確保を図ります。
		拠点間連携軸	市内外の拠点を結ぶ連携軸として県道22号、35号、37号等の道路を位置付け、市民の生活を支える路線として整備・維持を図ります。

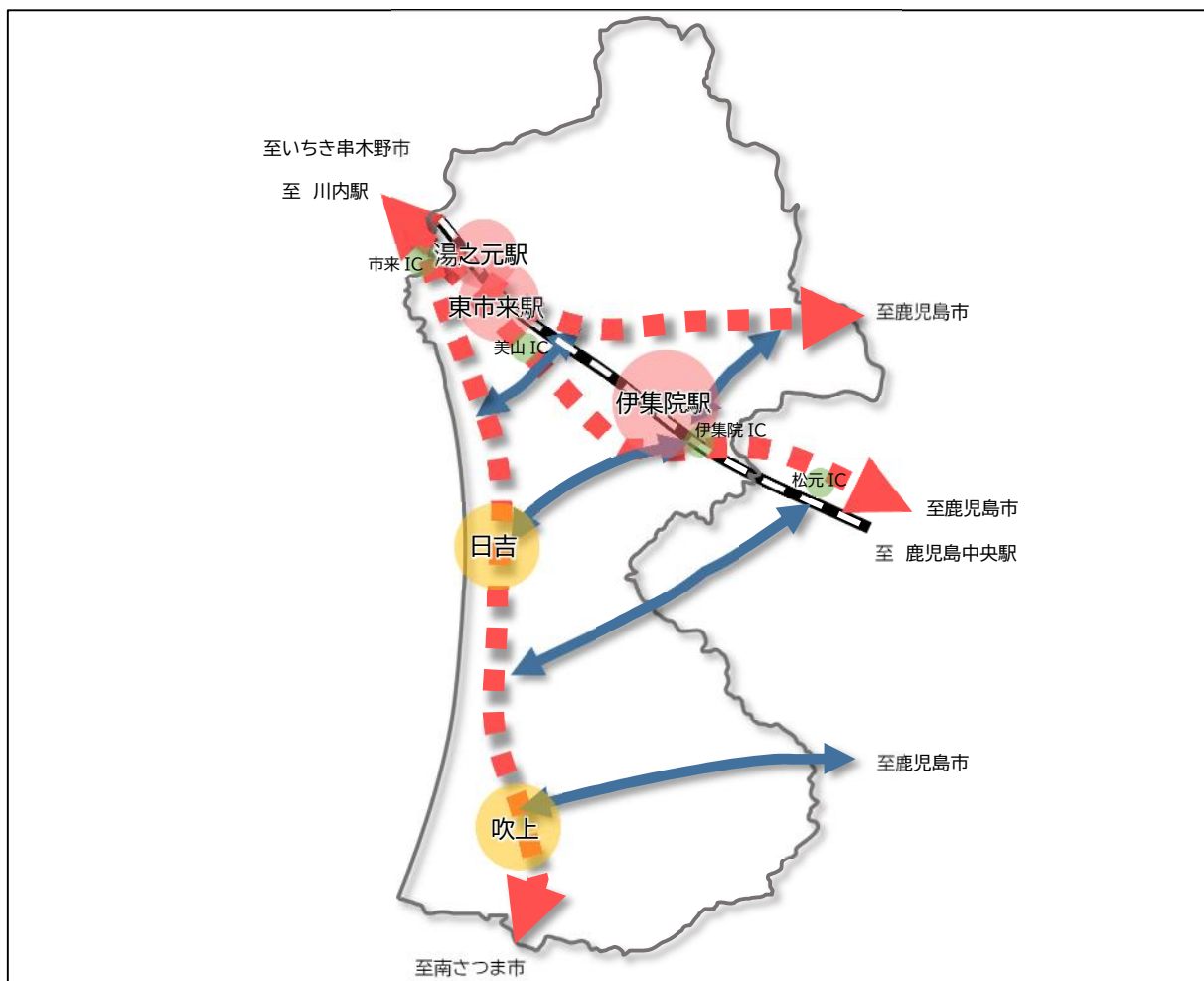
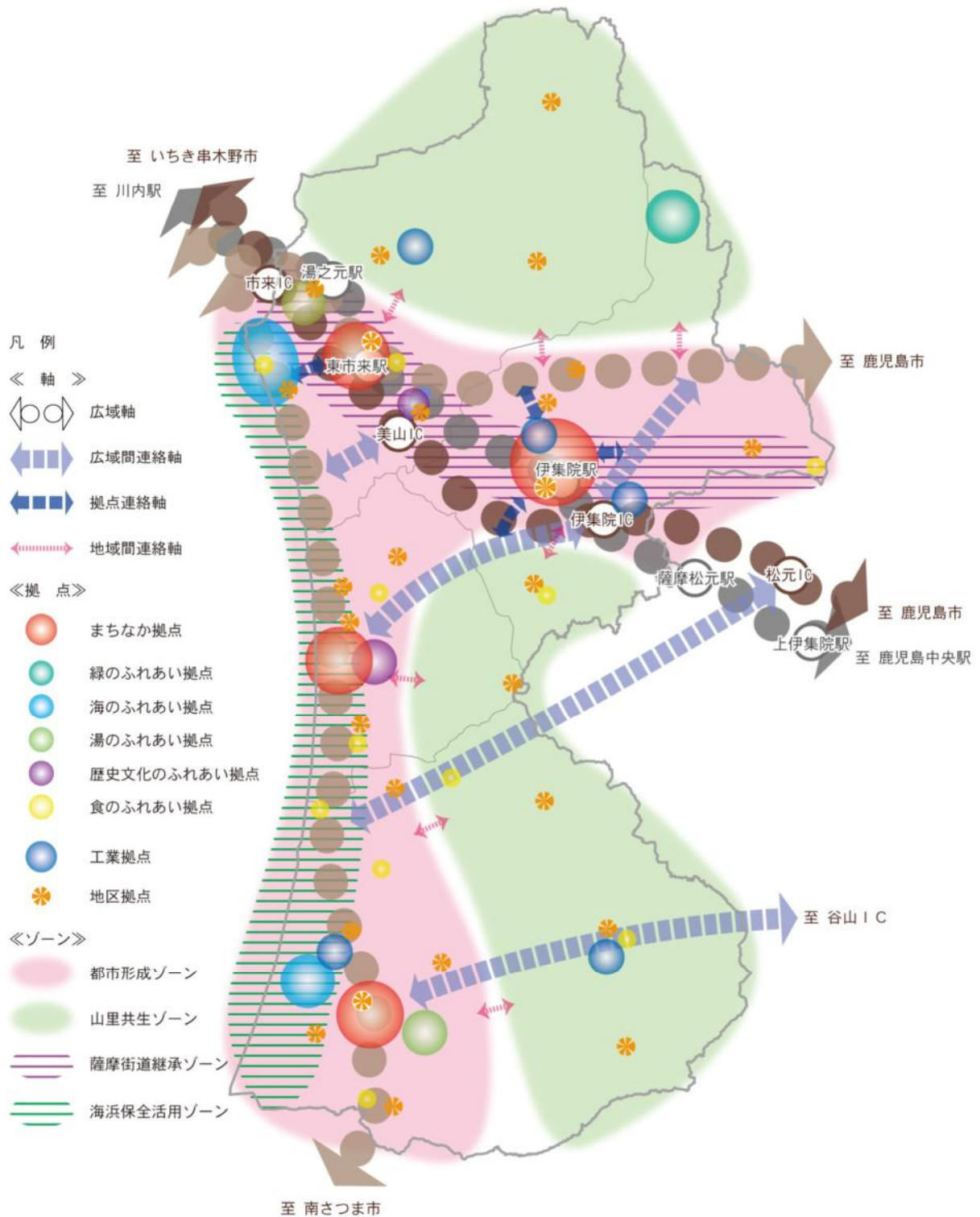


図 目指すべき都市の骨格構造

【参考】日置市都市計画マスタープラン(H31.3)の将来都市構造



- 第1章
- 第2章
- 第3章
- 第4章
- 第5章
- 第6章
- 第7章
- 資料編